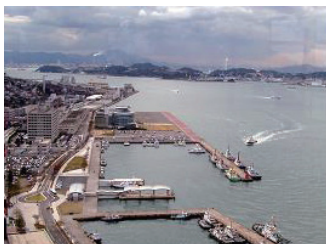


西海岸地区に新たな集客施設「県立文化拠点施設・海峡ドラマシップ」が2003年にオープンし、来街者の増大が見込まれる中で、西海岸の港湾関連用地および旧大連航路上屋1号倉庫の活用計画の検討を行ったものである。

2004年度調査の主眼は旧大連航路上屋の活用計画を主眼とし、幾つかの代替案検討を経て、港湾緑地内休憩所を併設した地域交流施設としての活用とあわせ、屋上部は緑地広場とし、国道3号へとつながる歩行者デッキを提案した。

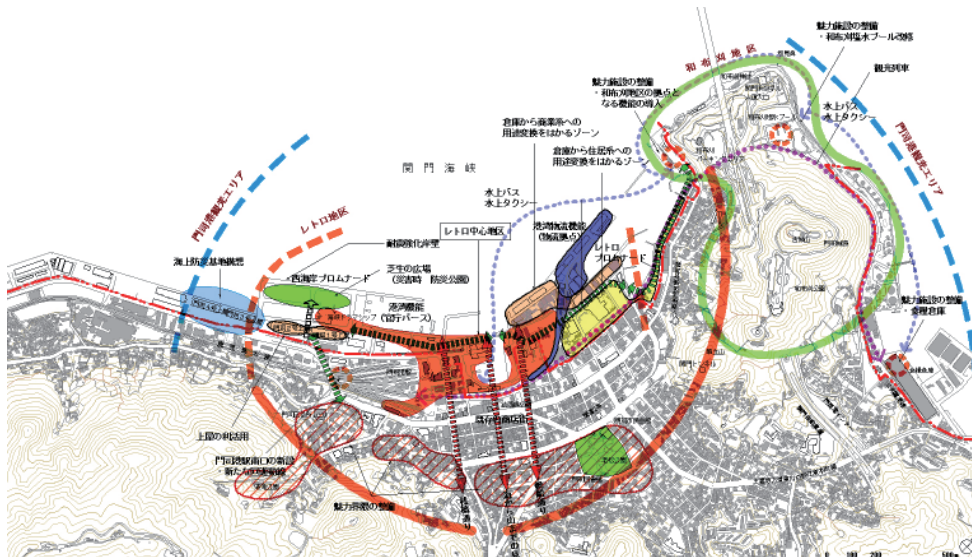
2006年度調査は港湾計画の改訂を睨み、将来的な港湾地区全体の土地利用の再編のあり方を検討することとなり、財団法人港湾空間高度化環境研究センターのもとに門司港地区臨海部再編計画策定委員会（委員長・片野博九州大学大学院教授）を設置、アブルは旧大連航路1号上屋の利活用の実現に向けての検討作業を担当した。



西海岸地区港湾地区鳥瞰写真



西海岸地区整備イメージ図(2004年度)



門司港地区臨海部再編全体整備構想(2006年度)

経緯 西海岸地区港湾関連用地等活用検討調査 '03.11～'04.3(北九州市)／北九州門司港地区臨海部再編調査に関する補助作業 '06.8～'07.3・北山創造研究所、環境デザイン機構と協同(港湾空間高度化環境研究センター／北九州市) 担当:中野、岩村、松尾、加藤、田邊、笠間、柴田、協力:萩原総合計画事務所(萩原真)